



同点弾を決めた関を祝福するイレブン。今試合の駒大は持ち前の攻撃力が光っていた  
(撮影・野澤俊介)

今年もやってきた。総理大臣杯優勝。同時に連覇達成。前人未踏の快挙に選手たちが沸き立

決勝戦の相手は関西第一代表として勝ち上がった桃山学院大学。この試合、駒大は鈴木祐が累積警告で出場停止という不安を抱えていた。前半、その不安が的中してしまっ。祐輔がいなかった自分引張っていきこうと

したが、前半は逆に空回ってしまっ

た。(小林亮) 開始4分、桃山学院大学Fのチャンス。右サイドからのフリーキックをゴール前の井上と頭で決められてしまう。当然、いやなムードが漂った。しかしその2分後には駒大もまた同じ形で関が決めた。すぐさま時間が続くが、その後、両者均衡した。中嶋が反応し逆転。このまま駒大リードで前半を折り返すと思われたが、筋力ではいかなかった。終了間際の4分、桃山学院大学、大西のロングシュートがDFのクリアもむなしく決まり、同点で後半へ。この失点が駒大に悪影響を及ぼすかと思われた。しかし、同点で後半に入って、また一からやれたのがよかった。(大) というように後半は格段と見違える動きを見せる。

53分、原のゴールを皮切りに駒大のゴールラッシュが続く。60分をすぎると突然激しい雨が降り出す。駒大にとってはおかまいなし、中嶋が倒され得たPKを中後が落ち着いて決め、2点リード。続く7分には赤嶺がダメ押し。5点目を決め、試合は5-2で終了。3年連続で大学サッカーナショナルに輝いた。

表彰式は駒大を祝福するかのよう

に晴れわたった空のもとで行われた。前期リーグを不甲斐ない結果で終えただけに、手にしたタイトルに選手たちの顔から満面の笑みがこぼれる。しかし選手たちはもうすでに先を見据えていた。もう一回やるべきことを確認してリーグ戦に挑みたい。鈴木祐。この主将、仲間がいれば三冠も夢ではない。(越智千絵子)

# 3年連続夏の栄光!

2004年7月11日、また一つ新たな歴史が刻まれた。駒澤大学、史上初の総理大臣杯3連覇達成。1回戦から攻めあぐむ試合が続いたが、強豪連なる関東リーグ所属の意地、そして王者の意地を見せ、桃山学院大学を破り3年連続、5度目の栄冠を手にした。

取材 文 永峰 綾、越智千絵子、内田浩嗣  
撮影 野澤俊介

平成16年度 第28回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 決勝

## 駒澤大学 5-2 桃山学院大学